

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度 第2回公民館運営審議会
開 催 日 時	平成28年1月22日(金)午後1時30分～3時15分
開 催 場 所	生涯学習推進センター 学習室301
出 席 者 の 氏 名	伊藤賢治、藤野邦夫、内野幸雄、中里市三、三原由紀子、本橋賢一、 梁瀬正明、浅田衛、佐藤一子、倉持伸江
欠 席 者 の 氏 名	斎藤敏男、山本直子、鹿島正之助、越阪部芳加、高柳進
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	教育長・内藤隆行、教育総務部長・美甘寿規、教育総務部次長・師岡林、 中央公民館長・神谷明、小手指公民館長・島崎敬一、富岡公民館長・斎藤 洋一、吾妻公民館長・比留間嘉浩、柳瀬公民館長・鈴木明彦、松井公民館 長・須田静男、新所沢公民館長・澤田孝男、三ヶ島公民館長・豊泉清喜、 山口公民館長・田中政美、新所沢東公民館長・酒井忠夫、並木公民館長・ 吉田上、生涯学習推進センター所長・倉富恵理子
議 題	(1) これからの公民館について(地域の状況を知る) 子どもの体験活動 地域の人材育成 地域の財産 (2) その他
会 議 資 料	
担 当 部 課 名	教育総務部社会教育課 浅野浩一課長、田中和子主査、粕谷紀夫主査 電話 04(2998)9242

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
教育長	<p>1 開会</p> <p>社会教育課長の司会により開会した。</p> <p>2 あいさつ</p> <p>2 点ほど述べさせていただきます。</p> <p>1 つ目には、一部では「公民館は要らない」との話も出ているようですが、そういうことはありません。</p> <p>教育基本法の中で「国及び地方公共団体は、公民館などの設置によって社会教育の振興に努めなければならない」と定めています。また、教育基本法に基づいて社会教育法では、公民館の設置について定めておきまして、教育委員会としても重要な施設と考えています。</p> <p>現在、子どもが30歳になってもひとり立ちできずに、親の年金に依存しているケースが増えています。そうした世代への学習支援は社会教育・生涯学習の重要な課題となってきています。</p> <p>2 つ目の話は、まちづくりセンターは非常に広範囲な業務を担っています。公民館業務だけでなく、以前の出張所業務として、住民票や戸籍の発行、また地域の防災の拠点として、災害対策基本法の対応や、最近ではマイナンバー制度の相談や質問にも対応しています。</p> <p>法律にはそれぞれの主管課がありますが、まちづくりセンターとしてこれらに対応しているため、広範な業務になっています。</p> <p>こうした広範な業務を担っているまちづくりセンターですが、職員としてどんな心構えで対応すべきか考えたときに、いわゆる出張所業務では法律に基づいて公平公正に行うリーガルマインドが非常に重要です。一方、公民館業務の人づくり・地域づくりでは、柔軟に対応するカウンセリングマインドが重要です。</p>
委員長	<p>本日、公民館運営審議会委員の皆様には、各地区の経験を踏まえまして大所高所の立場からご意見をいただけますと、大変ありがたく思います。</p> <p>現在、少子高齢化が進んで女性の平均寿命が86.8歳、男性が80.5歳となっています。また、50年前には100歳以上が153人しかいませんでしたが、現在58,820人に増えています。</p> <p>前々回の会議の中で、サークルメンバーの高齢化で活動ができなくなってきたとの報告がありました。今後、若い方を含めた多くの方が公民館に足を運ん</p>

<p>司会</p>	<p>でもらえるように、本日の議題にもなりますが地域の人材育成などについて意見をいただければと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(配付資料の確認)</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、ここから、議事に入りますので、委員長に議長をお願いいたします。なお、本日の議事は公開で進めることになっております。</p> <p>それでは、本日の議題は「これからの公民館について(地域の状況を知る)」です。最初に「子どもの体験活動」について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>前回の会議では、これまでの公民館運営審議会からいただいた答申・提言を紹介させていただきました。今年度は本日を含めてあと2回ございますので、これまでの提言等にかかれたテーマをもとに各地区の状況を確認していくことを中心に進めていきたいと思っております。</p> <p>来年度に入りましたら、各地区の状況を踏まえて、具体的にどんな取り組みができるのか、対象や事業内容などご提案をいただけたらと考えています。</p> <p>さて、子どもの体験活動として、前回の会議で佐藤先生から飯田市における生徒の職場体験の話がありました。福祉施設などにも職場体験していただいて、障害児や特別支援校への理解が深まるだけでなく、生徒を受け入れる企業にとっても地域貢献の一環になっているなどの話がありました。</p> <p>また、アウトメディアの話もいただきました。インターネットなどのメディアから離れることで、読書など別の活動をする試みです。</p> <p>所沢市でも、中学生の職場体験を行っています。企業や福祉施設、公民館でも実習しています。また、先ほどのアウトメディアと同様な試みであるノーメディアチャレンジもを行っています。所沢市の学校現場では、学校・家庭・地域と連携した様々な取り組みを行っています。</p> <p>体験活動ということでは、中央教育審議会が平成25年に「今後の青少年の体験活動の推進について」という答申をしています。この答申では、体験活動を生活・文化体験、自然体験、社会体験の3つに分類しています。</p> <p>本日の資料に中央教育審議会の答申にある3つの体験活動の主なものを掲載しています。</p> <p>以上の説明をもとにしていただきまして、最初の議事として「子どもの体験活動」について、各地区の状況をお伺いしたいと思います。公民館活動に限らず、地区の取り組みがありましたらご紹介いただきたいと思います。</p>

委員長	<p>ただ今、事務局から「子どもの体験活動」について説明いただきました。「子どもの体験活動」について、公民館活動に限らず、地域の取組みがありましたら、紹介いただきたいと思います。皆さんの意見をお願いします。</p>
委員	<p>「子どもの体験活動」についていえば、中央地区の各町内にはPTAの支部があり、その支部活動の中で、ミニバスケットなどのチームが構成されています。また、宮本町内会では夏に所沢神明社の境内でキャンプをしています。</p> <p>学校の社会体験として、盆踊りのやぐらを組む作業やお祭りの掲示板をつくる作業など、各町内で行っている盆踊りを生徒だけでなく、学校の先生にもボランティアで手伝ってもらっています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。他にありますか。</p> <p>無いようでしたら、私の地区の「子どもの体験活動」について話をします。</p> <p>荒幡富士の清掃では、荒幡富士保存会が中心になって、町内会や氏子会、地元の小・中学校とともに6月と12月に草刈りなどの大掃除を行っています。昨年12月に山口中学校の先生と生徒約150人が清掃用具を持って手伝ってくれました。また地元の野球チームやサッカーチームも手伝ってくれて、総勢200人以上で大掃除を行いましたので、これまでよりも1時間ほど早く終了しました。</p>
委員	<p>「子どもの体験活動」についていえば、新所沢地区には北小学校と清進小学校、明峰小学校があり、これらの小学校では「ほうかごところ」が行われて、放課後の体験活動などを行っています。</p> <p>また、小学校区単位に子ども会育成会が設置されていますが、この育成会の加入者が減ってしまっていて、子どもの体験活動が減るのではないかと懸念しています。</p> <p>減っている原因として、子どもは土・日曜日に習い事があったり、スポーツチームに入っていたり、また大人の役員離れもあったり、地域と繋がりにくい現状があります。</p> <p>防災訓練も含めた「子どもの社会体験」の案内を学校に発信しますと、中学校では部活単位で手伝ってくれます。また先ほどお話がありましたが、中学1年生が職場体験を公民館などで行っています。</p>
館長	<p>新所沢地区には、ワンパクスクールという子どもの体験活動がありますので、新所沢公民館長から事業の紹介をお願いします。</p> <p>新所沢地区では、所沢市青少年相談員協議会と共催でワンパクスクールを開催しています。長い歴史を持つ事業であるため、小・中学生のときに参加した児童・生徒が高校生・大学生、そして社会人になり、今度は指導する立場になって戻ってきてくれます。</p> <p>具体的な内容としては、夏に公民館を利用して宿泊体験をしたり、冬にスキ</p>

委員	<p>ーキャンプを行ったりしています。</p> <p>地元の若者が指導的な立場として戻ってきてくれる事業であるので、とても実りのある子どもの体験事業であると感じています。</p> <p>「子どもの体験活動」についていえば、富岡地区では、1月にまゆ玉まつり、2月に三世代まつりを開催しています。三世代まつりでは、竹馬・ヨーヨー・けん玉・紙飛行機・面子・割りばし鉄砲・コマ回し・あやとり・ビーズなどの遊びを民生委員と地域の婦人部の方が中心となってやっています。</p>
委員	<p>「子どもの体験活動」についていえば、柳瀬地区では、東所沢小学校の児童が学校外の畑で野菜をつくっています。野菜づくりは児童と先生だけでできるものではありませんので、地元農家がボランティアで指導してくれています。</p> <p>柳瀬郷土民俗資料保存会が公民館と協力して、子ども達が12月に麦まきをして、翌年10月に麦を収穫してうどんづくりをする事業を行っています。また、民生委員協議会が竹から炭をつくる事業を行っています。</p>
委員	<p>「子どもの体験活動」についていえば、山口地区では、山口中学校と荒幡小学校が荒幡富士の清掃活動を行っています。</p> <p>放課後の子どもの遊びは、児童館やほうかごところ、学童クラブの主に3か所で行われています。年中行事では、町内会で餅つき大会や通学班単位でラジオ体操を行っています。</p> <p>地域の伝統についてはいえば、岩崎彫獅子舞を教える大人と引き継ぐ人が少なくなっていることが課題となっています。</p>
委員長 館長	<p>公民館長から意見ありますか。</p> <p>「子どもの体験活動」についていえば、吾妻地区では、体育協会と共催してディスコンやインディアカ大会、ミニテニス教室を開催して、地域の方々の健康増進や親睦を図る機会としています。</p> <p>また、吾妻地区にある所沢高校科学部の生徒を講師に招いて、小学生向けに科学に興味を持てるような事業を開催しています。</p> <p>さらに、吾妻地区にはいきものふれあいの里センターや荒幡富士があります。そこを利用させていただきまして、身近な自然と触れ合う事業を開催しています。</p>
委員長 事務局	<p>後継者不足と言われていますが、町内会の夏祭りや餅つき大会など、地域行事に中学生ボランティアが参加することで、子ども達が地域に興味を持ってもらえるように、公民館として協力していきたいと思っています。</p> <p>それでは、次の「地域の人材育成」の議事に移ります。事務局から説明をお願いします。</p> <p>2つ目の議事は、「地域の人材育成」についてです。</p> <p>平成27年の「提言」や前回の会議の中で、地域の人材の掘り起こしとして、</p>

<p>委員長</p>	<p>背中をちょっと押してあげたり、日頃から声をかけていったり、こうした積み重ねが大事などのご意見がありました。</p> <p>これらの方法で、上手くいくケース、いかないケースがあると思いますが、「地域の人材育成」について具体的な例がありましたら、ご紹介ください。</p> <p>また、これまでの会議で、公民館職員に一任するのではなく、自分たちの活動は自分たちで行う意識が必要というご意見が、何人かの委員さんからありました。</p> <p>市民の方が主体的に活動していくことと、公民館職員との役割分担についても、あわせてご意見をいただければと思います。</p> <p>ただ今の事務局の説明に、何か質問、意見ありますか。</p> <p>前回の会議で、「背中をちょっと押してあげれば、すごい力を発揮できる人が相当数いること」、「職員任せにせず、自分たちの活動は自分たちで行う意識が必要」との発言がありました。</p>
<p>委員</p>	<p>「職員任せにしている状況」とは、どういうことがありますか。</p> <p>昨日、別の会議に参加しましたが、所沢市では行政区ごとにまちづくり推進協会議会を設置して、「自分達の地区のことは自分達で行おう」という考えで進んでいます。そうした会議の中で、「地域の人材育成」はとても大事であると感じました。</p> <p>ただ、地域には「何もしなくても生活していける人」がいる一方で、生活するのに精一杯な人もいます。こうした「温度差」の中で「地域の人材育成」を考えると、「地域の人材育成」と大きく構えることではなく、見えるところ、届くところから繋がっていくことで、何か一つ、二つ発信していけるものがあるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>「地域の人材育成」では、まず「人材の確保」が大事であると思います。「人材の確保」の一つの手段として、たとえばPTAを経験した人に声をかけるのがいいと思います。そうしたことで、「人材の育成」に繋がっていくのではないかと思います。</p> <p>まちづくりセンターから声を掛けることで、人材を確保し、育成できるのではないかと思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>所沢小学校と明峰小学校には、町内ごとの支部があって、金山町では20年以上も男の支部長が続いています。金山町にはおやじの会があり、若い人から年寄りまで、この会をとおして定期的に顔を合わせる機会になっています。</p> <p>おやじの会が「人材の確保」に寄与していますが、PTAを経験した人を確保するののも一つの手段であると思います。</p> <p>「子ども体験」のところで、飯田市の事業の話がありましたが、首都圏を少し離れた自治体では子どもが減って、人口減少の危機感を抱いているところが</p>

	<p>多くあります。</p> <p>所沢市はさいたま市に比べると、まだ子ども会や町内会、公民館の繋がりなどが残っています。こうした本当の大都市とは違う良さが所沢市には残っていて、人口減少の危機感はあまりないけれども、いかに地域の繋がりを生かしていくかが大切です。</p> <p>飯田市の特徴は、若者が出て行ってしまいう危機感があります。</p> <p>このため、「育ちあいのサイクル」に 子ども時代に良い体験をして育つと高校生・大学生・社会人になって、それに関わりたいと思う心が芽生えてきます。体験することが大事ではなく、「育ちあいのサイクル」に身を置くことが将来地元に戻ってくる「人材」という可能性に繋がっていきます。</p> <p>本日の議論で「子どもの体験活動」の議題と「地域の人材育成」の議題が別々に議論されましたが、体験させるというレベルで話しをするのではなく、「育ちあう」という地域の仕組みづくりの中で、人材育成に繋がっていきけると思います。</p> <p>また、「何もしなくても生活していける人」という話が出ましたが、一方では生活するのに精一杯な人もいます。そういう人の参加を配慮できる地域づくりにしていなかいと、定年後に時間とお金に余裕のある人だけの人材育成になってしまうという視点も必要であると思います。</p> <p>人材育成ということでは、生涯学習推進センターでは、庁内で人材育成についての会議をされているそうですが、今回の議題の参考としてセンター長からご説明ください。</p>
<p>委員長</p> <p>所長</p>	<p>所沢市では、所沢市生涯学習推進本部を組織しています。この組織は3層構造のピラミッド型になっていまして、一番上の本部会議では、市長を本部長、副市長、教育長を副本部長、その他に各部長で組織しています。その下には、課長で組織された幹事会議、さらにその下には実務担当者で組織されたワーキンググループ会議があります。</p> <p>現在、当推進部本部のワーキンググループ会議で「まちづくりに関わる人材育成」について議論しています。この議論の内容を幹事会、さらに本部会議に上げていく中で、公民館運営審議会でも報告できることがありましたら、今後報告いたします。</p>
<p>委員長</p> <p>委員</p> <p>所長</p> <p>委員</p>	<p>ただ今の説明に質問や意見ありますか。</p> <p>公民館と生涯学習推進センターの役割の違いは何か。</p> <p>地域課題は公民館が扱っており、一方で生涯学習推進センターは全市的な課題を扱っています。</p> <p>生涯学習推進センターの「人材育成」とは何か。たとえば、子どもの体験活動のリーダーを育てるとか、講演できる人を育てるとか、どういうことを言う</p>

<p>所長 課長</p>	<p>のか。</p> <p>そういうことも含めて「人材育成」について議論しています。</p> <p>生涯学習推進センターでは、「所沢市生涯学習ボランティア人材バンク」制度がありますが、その制度の説明をお願いします。</p>
<p>所長</p>	<p>当人材バンク制度は、いわゆる「まちの先生」として、自分の技能・経験を生かして市民グループに教える制度です。たとえば、PTAや子ども会などの活動で、登録者リストから講師をお願いしていることがあります。</p>
<p>課長</p>	<p>公民館とは異なるキャリア教育も含めて生涯学習推進センターでは行っています。</p>
<p>副委員長</p>	<p>ある自治体の社会教育部門では、学習指導者や子ども会活動のリーダーなどのボランティア情報を持っています。一方では、福祉系のボランティアが病院や福祉施設での手伝いや地域の中での助け合いの活動を行っており、そのボランティア情報を社会福祉協議会やボランティアセンターが持っています。</p> <p>社会教育系のボランティアと福祉系のボランティアは、お互いに似たところで活動しているけれども、お互いに情報共有していないことが、私の周りでは話題になっています。</p> <p>生涯学習推進センターでは、そうした福祉系のボランティアやボランティアセンターが所管しているボランティアの情報を共有したり、そうした団体と連携したりすることを考えていますか。</p>
<p>所長</p>	<p>生涯学習ボランティア人材バンクの「ボランティア」の意味は、現在では一般的なボランティアの意味とは異なってきています。要望があれば行きますと「まちの先生」にしていこうと考えています。</p> <p>このため、福祉系のボランティアとは違うと考えており、横の連携としては、まちづくりセンターや地域活動支援センターとの連携を考えています。</p>
<p>教育長</p>	<p>かつて婦人会や自治会など、地域ごとの横断的な組織がありました。しかし、所沢市が都市化する中で、そういったものが拡散してしまいました。</p> <p>そうした状況で、行政組織内のテーマ型のボランティアとして、明るい選挙推進協議会や自然体験活動、自然を守る活動などが増えています。</p> <p>東日本大震災以降、「自助」「共助」の中間にあるいわゆる「近所」を大事にしないと、震災後に迅速に助け合えないことが分かってきました。そこで、社会福祉協議会は福祉系ボランティアを主要なテーマにしてきた経緯があります。</p> <p>一方、生涯学習では、「生涯学習ボランティア人材バンク」で学んだことを還元することで地域貢献しようとしています。</p> <p>また、所沢市では中学1年生が3日間の職場体験を行っています。現在、その中学1年生が市役所の広報課や教育センターなどで職場体験しており、その</p>

	<p>子ども達の顔を見ていますと、最終日には顔付きが変わってきていることが分かります。</p> <p>職場体験で子ども達を受け入れる事業所では、子ども達の学習内容を高めるために、プログラムを考えてくれているところもありまして、人材育成という面で相当成果が出ていると思います。</p> <p>先ほど委員さんから話が出ましたが、「人材を確保」することも大事なことです。以前、出席した会でのことですが、実行委員が高齢化しているため、会場準備が困難になっています。そこで、若い人が実行委員会に入ってほしいと、少年サッカーや少年野球の若いお父さんを学校開放委員会から選出してもらっているとの話がありました。</p>
委員長	<p>それでは、次の議事の 地域の財産に移ります。</p>
課長	<p>事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>3つ目の議事として、以前の「提言」にもありました「地域の財産」についてお伺いしたいと思います。</p> <p>配布資料では、「地域の財産」の分類を自然、文化、歴史、その他としました。</p> <p>配布資料の記載項目について少し説明をさせていただきますと、中央地区では町内会ごとに活動をしていると話がありました。</p> <p>たとえば、町内会で行っている山車まつりなども地域の財産であると思います。</p> <p>また、かなり以前の取り組みですが、小手指公民館で行っていた青年学級は全国的にも優秀な活動であったため、ここから小手指地区の人材を多く輩出してきたと聞いています。</p> <p>また、富岡地区には、かつて青年団の陸上競技のメンバーで組織された富貴華クラブがあり、このクラブの旗が、今でも富岡地区体育祭の行進に使用されているそうです。</p> <p>また、三ヶ島地区の「地域の財産」に早稲田大学を記載しましたが、これからの地域を考える上で大事な視点だと考えています。</p> <p>前回の「提言」では、所沢市内には人材や地域行事も含めて様々な財産がありました。さらに各地区にはどんな財産があるかを、具体的に挙げていただきまして、それらを地域づくりにどう生かせるのか、検討できたらと思います。</p>
委員長	<p>ただ今の事務局の説明に、何か質問、意見ありますか。</p>
委員	<p>富岡地区の一番の財産は、三富の開拓があります。約320年前に川越藩主の柳沢吉保が1戸分の新田を幅約72m、奥行約675mとして開拓した畑が残っています。</p>
館長	<p>松井地区では、子どもや若い人達に自然遺産、文化遺産を知ってもらうため</p>

<p>委員長 委員</p>	<p>の事業を松井まちづくり推進協議会で考えています。</p> <p>具体的には、松井地区にある自然遺産、文化遺産について、どんなものがあるのか公募しました。東川の桜並木や牛沼の大けやき、安松神社、熊野神社など、37か所の推薦がありました。</p> <p>今後、10名ほどの認定委員により選定作業を進め、所有者に納得してもらった上で地区の人達に周知していこうと考えています。</p> <p>倉持先生から、これまでの審議を踏まえて意見をいただけますか。</p> <p>子どもの体験活動の話が出ましたが、所沢市にはまだ地域の力が残っていて、子ども会育成会やスポーツ少年団、学童の保護者の繋がりが維持されているところに魅力を感じました。</p> <p>一方で、子ども会育成会が減ってきたり、地域の役職者が若い人に移行していなかったり、地域の繋がりをどうやって維持していくかが課題であると思いました。</p> <p>おやじの会や青年団、PTAなどを通した結びつきの着眼は大事です。</p> <p>最初から主体的に役割を担ってもらうことは難しいと思います。役割を分担し合う中で仲間ができたり、関係性ができたりします。これは、大人が地域に関わるプロセスであると感じました。</p> <p>佐藤先生の話の中で、「育ちあう地域」や福祉系ボランティアと社会教育系ボランティアという話がありました。</p> <p>社会教育系ボランティアは、個別の支援というよりもむしろグループの支援、子ども同士、参加者同士が学び合って成長していく環境や関係をつくれるサポートの仕方に特徴があると思いました。</p> <p>また、地域にはいろいろな魅力的なものがあるので、それを再評価・再発見する機会があることも必要です。その地域の魅力的なものを知らない住民やこれまで地域に目を向けられなかった定年後の住民にとって、再評価・再発見する機会になります。</p>
<p>副委員長</p>	<p>そうしたところに公民館の果たす役割があり、再評価・再発見できれば、もっと地域に貢献したいという住民が増えるのではないかと思います。</p> <p>本日、3つの柱をテーマに各地区の実態をお話してもらいました。今回の任期では前回の提言を引き継いで、それぞれの地区の特徴を中心に議論を展開していくことになると思います。倉持先生からも話があったように、各地区の再評価・再発見になってくると思います。</p> <p>自分たちの地域の特徴や課題を、それを引き継いで次の世代に継承するかの観点を含めた「育ち合い」のサイクルを捉えなおしていただくことで、本日の3つのテーマである「横軸」を「縦軸」にもう一回捉えなおしていくという議論になっていくと思います。</p>

	<p>生涯学習推進センターの話がありましたが、役所の縦割りで人が育つのではなく、地域のニーズの中でテーマ別の課題を共有したり、似たことをしているのであればお互いに知恵を出したり、協力をしたりする視点が大切です。</p> <p>最後に、公民館や社会教育は、学習を通じて地域認識を高めたり、スキルを高めたりすることが固有の役割としてあります。</p> <p>子どもたちに体験をさせて「楽しかったね」で終わるのではなく、子どもたちが地域をどう見たかという認識のレベルまで深めないと、体験学習は不十分で体を動かしただけで終わってしまいます。</p> <p>学習内容にこだわる公民館長が、地域の課題解決のための学習機会を持ったり、地域の文化を深く知るための学習機会を持ったりすれば、子ども達などみんなが興味を持って公民館に集まってきます。</p> <p>「学習を組織する」とは、きっかけづくりであるし、学習を追求するところでもあるし、社会教育というプロパーの仕事でもあります。</p> <p>以上、本日の感想です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次に「 その他」に移ります。</p>
事務局	<p>事務局から説明をお願いします。</p> <p>「 その他」ですが、本日は「子どもの体験活動」「地域の人材育成」「地域の財産」の視点で議論していただきましたが、これ以外の視点で議論すると、地域をみんなで考えていけないかという提案がありましたら、ご意見いただけたらと思います。</p>
各委員 委員長	<p>(意見なし)</p> <p>意見がないようですので、これで議事を終了します。</p> <p>次に「報告事項」に移ります。</p>
委員長 事務局	<p>4 報告事項</p> <p>(1) 第69回所沢市成人のつどいについて 事務局より報告をお願いします。</p> <p>(配付資料により)成人のつどいの出席者数や出席率を確認し、各地区の委員から感想をいただいた。</p>
委員長 事務局	<p>(2) 第21回入間地区生涯学習フォーラムの参加について 事務局より報告をお願いします。</p> <p>(配付資料により)第21回入間地区生涯学習フォーラムの参加依頼を行った。</p>
委員長	<p>それでは、これで報告事項は終了とします。議事と報告事項は終わりました。</p>

事務局	<p>ので、進行を事務局に戻します。</p> <p>5 閉会</p> <p>委員長、議事進行ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第2回公民館運営審議会を終了とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
-----	--